「過 則 勿 憚 改」

（特非）シビル NPO 連携プラットフォーム個人正会員　監事

NPO 法人あそ地下足袋倶楽部理事長　木村 達夫

紀元前の春秋（戦国）？時代“日没国”（現、共産支配の支那）に、多くの国が乱立、対立していた時代、その中の一つ「魯の国」（山東省南部）に生を受けた“孔子（紀元前５５２～同４７９）”という儒家が言った論語の中の一節に、「過則勿憚改」・・・！という言葉がある。内容は“過（あやま）ちては、即（すなはち）改（あらた）むるに、憚（はばか）ること勿（な）かれ”と言うそうだ。

我が、“日出国”（神州日本）の言葉に訳すと、要は“自分が「ミス」をした時は、躊躇なく即座に非を認め、また、その時は自身の今までのプライド等は大いに傷付くが、その「ミス」を隠し恐れるようでは駄目だ、そんなことでは人間として大成できない”ということらしい。２０数年もの前、ある講演会で聞いたことなので、国語力「ゼロ」の“小生”のこと、訳が間違っていたら本当に申し訳ありませんが・・・。

しかし、仕事をやっている限り、神様でない我々人間は「大なり・小なり、ミス」をしない者は、誰一人おらず、自分の仕事でやった「ミス」に気づいても“プライド”という厄介極まりないものが脳裏を掠め、また。若い頃の勉強等で、“勘違い“等で入った知識など曲げたくないのが、数多いる生き物の中で“考えて行動”等を起こす我々人間だ。あまりグズグズ言い訳をしたり、誤魔化してその場を一時的に凌いでも、最終的には後で必ず分かるもの、そんなことをして仕事の真似事をしている振りをしているようでは、上役や部下らの見る目も変わり、その人間の度量も見抜かれてしまう。どんな仕事をしている人でも「ミスはミス」と”認め、それを次の仕事に活かし、自分自身の後の勉強・研鑽に活かし役に立ててもらいたいものだ。「ミス」ほど“金では買えない一生の宝物”になるのではないか・・・。

桎梏、何度も言うが、「ミス」と言っても勘違い、聞き違い、見違い等数多くあり、その「ミス」を不幸にも起こしてしまった時は言いづらいのはよくわかるが、上役、同僚、部下らに、言い訳せずに、間違ったことを認め、それを早くさらけだし対策を立てて置かないと、後に必ず迫り来る“検査・納品”等にも通らない「不合格」品となり、その時の代償の方が何倍も大きいのでは・・・。「ミスはミス」として早々に解決策をとり、常に仕事への意欲、やる気をもち、仕事の締めに「歓働感」を味わいたいものだ。

仕事をしている限り、「ミス」が無くなることはないと思うが、常に仕事への意欲、やる気をもち、自らや上役・部下等にも何度も何回も、チェックをし、また、してもらったりする“癖”をつけることも大事ではないか、とかく、我々人間は、思い込み、勘違い、理解不足等々あるものだ、これは「ミス」を数多経験した“小生”だから、デッカイ面して言えることだ。

以前、ＮＨＫで「紅白の総合司会」等もやった、女性に「超・ベテラン」アナと言っては誠に失礼な話だが、最近まで担当していた人気番組「あさイチ」という番組の司会の有働アナでさえ、以前・・・呼びかけのコーナーで「・・・浮足立つたこと・・・」について視聴者等へ意見を求めたことがあった。人気番組なので直ぐに視聴者から「グァムに行った時、気持ちがウキウキして水着を忘れた」・・・等々の体験等が多く寄せられ、それらを有働アナは「・・・浮足立つ・・・」をウキウキワイワイと思い多々紹介していたところ、数多見ている賢明な一視聴者から「浮き指（足）だつ」の意味は「靴が小さく足の中指が・・・では」との“ＦＡＸ”で・・・、「旅行に行く前、嬉しくて落ち着かない云々」ではないのではと、指摘があり、有働アナも辞書を持ち出して確認し「非」を認めた。こんなことも「ミス」の一つでは・・・、その日の「あさイチ」同アナは放映終了までワイワイウキウキではないが変に「浮き足だって」いたように見えた。誰でも「ミス」はある・・・。当然、浅学の小生も「・・・、嬉しくて落ち着かない・・・」と思っていたのは当然のことです。恙無しや・・・。